

申請者 岸野幸枝  
論文題目 米国世論の戦争に対する選好とジェンダー観念——「美しき魂—正義の戦士」のフレームが戦争の正当性に与える影響をめぐる—考察  
審査員 青野利彦（主査） 山田敦 秋山信将

本論文は、アメリカ世論の軍事派遣に対する選好を、オンライン・サーベイ実験の手法を用いて分析しようとするものである。その際、従来、ジェンダー国際関係論とよばれる分野が分析対象としてきたジェンダー観念やジェンダー・ステレオタイプが、軍事派遣をめぐる世論の選好に与える影響に着目した点に本論文の特色がある。

本論文の学術的貢献は次の点にある。第一に、これまで別々の研究領域として扱われてきた「伝統的」な国際関係論とジェンダー国際関係論の橋渡しを試み、ある程度成功したことである。ジェンダー国際関係論は、地域や時代の文脈を重視し、言説分析や歴史分析といった方法によって、ジェンダー観念が軍事力やその行使の正当性に与える影響を明らかにしてきた。他方、戦争をめぐる世論の研究は、事象の法則性を解明することに重きをおき、定量的手法や実験手法を用いて行われる国際関係論分野で蓄積されてきた。本論文は、互いに顧みられることの少なかった、この二つの領域を架橋する試みとして高く評価できる。第二に、本論文は、上記の二つの研究潮流に区分される数多くの先行研究をレビューしたうえで、二つの仮説群を設定し、それをオンライン・サーベイ実験という、数多くのサンプルを集め得る新たな方法で検証したことである。その結果、二つの仮説群の第一群にあたる、人々の日常生活に普及したジェンダー観念を反映する「美しき魂—正義の戦士」(勇敢な男性が無垢で脆弱な女性を救う)フレームが、個人の敵国に関するネガティブな感情や、自国に対するポジティブな感情、また戦争への支持を高めることを明らかにした。第三に、本論文が、論文中で提示した第二の仮説群がデータによって支持されなかったことを明記したうえで、その原因と考え得る分析手法上の問題点について詳細に検討していることである。この作業は、関連するテーマの今後の研究の進展に資するものだといえよう。

もちろん、本論文に問題がないわけではない。第一に、本論文では、ジェンダー観念と合理的利害という二つの要素をそれぞれ独立変数とするフレームを対置させたうえで、後者に比して前者が従属変数に与える影響が大きいか否かを定量的に測定することで仮説検証が行われた。しかし、ジェンダーと同様に人々の生活に根ざした人種や宗教、また、本論文で検証した米国のケースの場合、「アメリカの正義」といった観念が、従属変数に与えた影響について本論文は検討していない。こうした諸要因とジェンダー要因の間で従属変数に与えた影響にどの程度有意差があったのかを検討していれば、本論文の意義はより大きなものとなっていたであろう。第二に、こうした問題を検討する際に、例えばフォーカス・グループ法など、従来からよく用いられてきた方法と、本論文で用いた最新のオンライン・サーベイ実験手法の長所と短所を比較した上で、双方を組み合わせて分析することなども検討してもよかったと思われる。第三に、分析に際しての概念設定について、もう少し精緻化する余地があったのではないか。例えば、世論における軍事行動の正当性の確保の問題は、軍事行動をこれから起こす場合と、すでに始まっている軍事行動を継続する場合では異なるはずである。また、本論文の仮説の一つである、「女性の保護」というジェンダー観念をベースとする問題と、より一般的でジェンダー的に中立的な「人権保護」という概念をきちんと分けたうえで、それぞれが従属変数に与えた影響を検討することもできただろう。ただし、こうした問題は申請者自身も今後の課題として認識しており、本論文の価値を損なうものではない。

以上のような論文の評価と口述試験の結果に基づいて、審査員一同は、申請者岸野幸枝氏に一橋大学博士（法学）の学位を授与することが適当であると判断する。

以上